



## 忍法 鳥取の「御忍屋敷」に行ってみたの巻



### 国際忍者学会松江大会へ参加してみたの段



写真1 国際忍者学会で報告する現役忍者・凛さん

2025年9月13、14日、鳥根県松江市くにびきメッセで開催された、第8回国際忍者学会に参加してきました。聞き慣れない学会ですが、全国で唯一の忍者学講座を持つ三重大学の国際忍者研究センターが主催する学会で、歴史や文学、武道、忍術、科学の専門家などが集まる日本の忍者研究のメッカです。

全国から選りすぐりの忍者研究者と忍者たちが集結した学会では、鳥根大学教授の船杉力修氏による基調講演「城下町松江の形成・発展と忍術・兵法—歴史地理学の観点から—」を皮切りに、次々と最新の研究成果が報告されました。私のお目当ては、『徳川家康と服部半蔵忍者隊』の一員である、現役忍者・凛さんの報告「鳥取城と忍者」です（写真1）。凛さんは、当館の資料を使い鳥取藩の忍者研究を進めるとともに、三重大学研究基盤推進機構リサーチフェローとしても活動する新進気鋭の研究忍者です。

### 鳥取藩にも忍者がいたの段

変わり身の術を使って(!)、凛さんに成り代わり、その報告を掻い摘まんで紹介しましょう。「鳥取藩の忍者は『御忍』<sup>おしのび</sup>」<sup>あたらし</sup>てな、新・国府・吉岡家など伊賀国（現、三重県の一部）にルーツをもつ特定の家が代々忍者をつとめておったのでござる。御忍の職務は、①火の用心、②不寝番、③藩主の御入湯御供、④江戸勤め、⑤鳥取藩内の在廻り、⑥藩主の御内御用、⑦情報探索などだったんじゃが、皆がイメージする忍者、例えば敵城に忍び込み、諜報活動や攪乱作戦を行う者、とはちょっと違うのでござる。これら職務のなかでもっとも大切なのが、藩主の御内御用、つまり藩主の身の回りの仕事だったんじゃ」（以上、凛さんの話し方をまねてみました）

### 江戸前期の鳥取藩の「忍者屋敷」を知るの段

さて、凛さんの報告では、鳥取城下における御忍の居住地についても紹介されました。凛さんは、当館が所蔵する慶安3年（1650）以前の鳥取城下を描いた「鳥取城下之図」という絵図をもとに、江戸前期の御忍は、①鳥取東照宮の門前町である上町や大榎町、②袋川の鑄物師橋付近の元鑄物師町（現在の寿町、市立みたらから保育園付近）の2か所に居住していたことを明らかにされました（写真2）。

改めて絵図で確認してみると、たしかに上町や大榎町周辺に「しのひ衆」などの記載が見られ（写真3）、元鑄物師町周辺には「宮脇平太左衛門鉄炮并しのひ衆」とありました（写真4）。なお、忍者屋敷といっても、隠し部屋や扉がある



写真2 忍者が居住した上町と元鑄物師町（「鳥取城下之図」当館蔵より）



写真3 上町の忍者屋敷。「しのひ衆」とある（矢印の箇所）



写真4 元鑄物師町の忍者屋敷（矢印の箇所）



ような「からくり屋敷」ではなく、普通の武家屋敷だったと考  
えられます。

### 「忍者屋敷」に行ってみたの段

忍者屋敷の存在を知った私は、早速、上町周辺へ現地調  
査に出かけました。調査のお供は、当館が提供しているまち  
歩き支援デジタルマップ「鳥取こちずぶらり」です。絵図に  
「御しのひ衆」と記された場所に行ってみると、そこには普通  
の住宅が…（写真5）。残念ながら忍者屋敷の名残りはあり  
ませんでした。

もう少し調べてみたいと思い、江戸後期、鳥取城下の歴史  
書である『鳥府志』<sup>ちようふし</sup>をひもとくと、上町の町内にはかつて「御  
忍屋敷」という地名があったことが判明しました。その説明



写真5 現在の上町忍者屋敷付近

には、「昔はこの辺に伊賀衆（御忍のこと）が皆住んでいた  
ようだ。享保5年（1720）の石黒大火の記録には7人の  
住人が見えるが、全員が御忍ではなく、なかには藩医の名前も  
あった」とあります。つまり、江戸前期には御忍が皆集まって  
住んでいたが、中期には歯抜けになっていたというのです。

### 場末地域に忍者屋敷がある

#### 歴史的意義を考えてみたの段

なぜ、江戸前期には上町や元鑄物師町周辺に忍者屋敷が  
所在していたのでしょうか。城下が発展途上であった当時、  
上町も元鑄物師町とともに城下町と農村との境界、いわゆる  
「場末」でした。この地域には、御忍のほか<sup>おかちしゅう</sup>に御徒衆、坊主、  
鉄砲足軽など下級藩士らが集まって住んでいました。つまり、  
上町や元鑄物師町に忍者屋敷があったのは、そこが御忍も  
身分格式的に属する下級藩士の居住地域だったからという  
ことになります。

戦国時代の忍者は、忍びの技能をもって武將に仕える存在  
でしたが、一方で実際の身分は農民、しかも下人など下層の  
存在でした。それが江戸時代になると、下級ではありますが  
武士となったのです。場末に住む忍者というと、華やかな忍者の  
イメージとはかけ離れていますが、忍者の武士化という時代の  
変化を象徴するものと言えるのです。

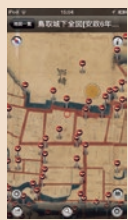
（学芸課 歴史・民俗担当 大嶋 陽一）  
<sup>おおしまよういち</sup>

topic  
やってみよう

### スマホをもって鳥取城下を歩く まち歩き支援デジタルマップ 鳥取こちずぶらり



【鳥取城下之図】  
慶安元年以前（1648年以前） 安政6年（1859年）



【鳥取城下全図】  
慶安元年以前（1648年以前） 安政6年（1859年）

鳥取こちずぶらりの  
古地図（全6種）

鳥取の中心市街地は、いまから約400年  
前に城下町として整備されたことにはじま  
ります。鳥取こちずぶらりは、スマートフォン  
やパソコンなどのWEB上に表示される江戸  
時代の古地図や、昭和22年に撮影された  
航空写真などを見比べながら散策できる、  
まち歩き支援デジタルマップです。

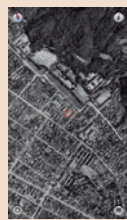
サイトでは、GPSにより古地図上に  
現在地を表示し、まるで昔の鳥取を  
歩いているような感覚を味わえます。

サイトへの  
アクセス方法

右のQRコードを  
読み込んで下さい



[https://strolly.com/boards/924/?utm\\_campaign=Newsletter202512&utm\\_source=QR&utm\\_medium=news04](https://strolly.com/boards/924/?utm_campaign=Newsletter202512&utm_source=QR&utm_medium=news04)



【米軍空中写真】  
昭和22年（1947年）



【国土地基本図】  
昭和46年（1971年）



【鳥取城下町大切園川内上】  
天保14年（1843年）以降



【鳥取城下町大切園川内下】  
天保14年（1843年）以降

### 展覧会紹介



前田寛治《棟梁の家族》鳥取県立美術館蔵

### 江戸絵画から《ブリロ・ボックス》まで 鳥取県があつめた美術コレクションのバリエーション！

2026年2月28日（土）～3月22日（日） 休館日：月曜日  
一般/400円（前売・20人以上の団体/300円）

（主催）鳥取県立美術館 （共催）鳥取県立博物館

本誌 ニュースレター「宝蔵」では当館スタッフの  
日々の活動などをご紹介します。  
バックナンバーは当館HPでご覧いただけます。



### 鳥取県立博物館 ニュースレター「宝蔵」No.4

令和7年（2025年）12月19日発行

編集・発行 鳥取県立博物館

住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地

TEL 0857(26)8042(代) FAX 0857(26)8041

URL <https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/>

E-mail [hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp](mailto:hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp)



博物館 HP



お客様の満足のその先へ…  
**MORRIX**  
株式会社モリックスジャパン

**NEX NIPPON EXPRESS**  
日本通運株式会社 鳥取営業課  
TEL 0857-28-0202

**三和商事株式会社**  
本社 鳥取市千代水 1-22-2  
TEL 0857-23-2627 FAX 0857-23-5941  
米子支店・東伯営業所